

令和2年度 環境で地方を元氣にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 **キックオフミーティング 発表資料**

活動団体名：徳之島地区自然保護協議会

活動地域：鹿児島県 徳之島

【2020年 世界自然遺産候補地】

～活動におけるテーマ・キャッチコピー～
希少種の保護と農作物食害問題の行く末



私たちが活動する背景

2005年 国の特別天然記念物 アマミノクロウサギが150～200頭 生息している。



アマミノクロウサギの保護に向けて、
生息地への車両侵入規制、交通事故防止対策、肉食哺乳類の捕獲・馴化・譲渡、
肉食哺乳類の発生源であるノラネコの避妊去勢手術を推進。



個体数が回復、これまで見られなかった場所でも見られるように。
生息地も拡大傾向



2018年

山裾に農園を持つ農家さんより、タンカン木の表皮が複数かじられていると連絡。
センサーダブルによる解析の結果、アマミノクロウサギが犯人である事が判明。
その後も次々と樹皮をはがす被害が発生。
樹皮をはがされたタンカン木は、成長が遅れたり枯死してしまう。



これまでのように希少種の保護に取り組むだけでは、解決できない問題が発生。
地域住民の生活を守りながら、且つアマミノクロウサギを守る取り組みが必要。
**希少種が存在することで地域も潤う、野生動物との共生・共存を目指した
地域を目指す。**

目指す地域の姿



農作物のブランド指定

ふるさと納税・企業連携
高価格販売・販売促進

利益の
一部

・環境教育学習、シンポジウム
・循環強化

活動の紹介 (SNS,パンフ等)

希少種保護活動

希少種個体数増加

農作物への食害発生

食害モニタリング

農作物保護柵の設置

効果
検証

グリーンツーリズム
エコツアー商品化

新たな支援者・資金獲得

徳之島地区自然保護協議会

行政

農家

事業者

昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

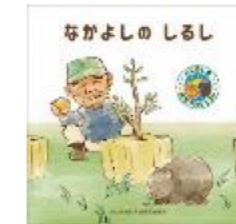
当初予定していた取組

- 徳之島に適した環境保全型農業のあり方検討。
- 世界自然遺産ブランド立上げ・販路開拓。
- ふるさと納税との連携。
- 自然保護基金の立上げ。
- 基金を活用した環境教育活動や希少種による食害対策、農産物での食育など。
- 企業CSR活動受入やニーズ調査等での民間知見の活用・連携。
- 他の世界自然遺産地域や環境保全型農業推進地との連携。



実際に行った取組

- アマミノクロウサギによる食害被害の調査
- 食害被害低減に向けた防護柵の設置・効果検証
- 共生・共存に向けた取組みを全面的に打ち出した資金募集
- 農家さんとアマミノクロウサギの間で起こっている事柄の整理、ストーリーブックの製作



実践の中での気づき

- ガバメントクラウドファンディングによる資金募集の有効性
- 農家のアマミノクロウサギに対する想い
- 世界自然遺産ブランドのハードルの高さ
(一過性ではなく、持続あるものにするには)

事業のタネ 3つ

- 徳之島産農作物の高付加価値化事業
アマミノクロウサギが訪れる農園で生産されたタンカンの販売価格を上げる。
- アマミノクロウサギ食害モニタリング事業
農家と外部専門家を交えた食害対策方法の効果検証。
- 徳之島環境学習事業
地域で起こっている問題を地域の人が知り地域全体で課題解決を目指す。

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- 目標（成果指標）について

希少種と農家の共生・共存の取り組みは試行錯誤中であるため、指標としてふさわしいデータの抽出に悩んだ。

- マンダラについて

マンダラの作成については、事業がある程度進んでから作成するほうが取り掛かりやすい。

やりたいことを全て書くのか、この1～2年でできることを書くのかはっきりしなかった。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- ・高付加価値化によって農家が得られた利益がどのように地域循環するかを“見える化”させる必要がある。

- ・見える化した事業を支援するための基金の立上げ。

- ・今後の展開として、地域が自走してブランド化商品を売り出していくための仕組み作り。

課題を打破するための今年度の取組

- 地域循環共生圏の見える化

→活動内容の整理、パンフレット製作。

- 基金の立上げ

→とくしまコウノトリ基金やその他地域の取り組みを参考に基⾦を⽴上げ。

- 地域が自⾛してブランド化商品を売り出す仕組み作り

→本年度は希少種との共存を目指した農作物の高付加価値化として、タンカンをモデルに展開する。共生・共存を目指した農作物の市場反応やニーズを知ることで、他の農作物への展開や自走するブランドとしての可能性を探る。

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

- 希少種×島内生産農作物を掛け合わせたエコツアーの開発
- 食害対策について、行政が知恵・お金を出す提供し、農家がそれに基づいて行動する仕組みだった。

今年度は、行政がお金出し、農家が知恵を出す協同の取り組みを行う。

今年度の到達目標

- アマミノクロウサギ食害問題を農家・行政だけが考えるのではなく、地域全体が考える仕掛け作り。（問題を共有、仲間作り）
- ↑と同時並行で、効果的な食害被害低減・防止対策を確立する。
- ふるさと納税制度を活用した販売促進・高付加価値化。
- 利益の一部を自然保護基金に寄附していただけるよう農家に依頼、承諾。
(kgあたり200円を自然保護基金協定を結ぶ。)
- 地元子ども達のアマミノクロウサギ認知度向上、学校給食での地産地消推進。
- 徳之島自然保護基金の立上げ。

年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◆協定締結（活動予算執行開始） ◆キックオフミーティング			現地意見交換会		◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
プランディング 広報・周知					パッケージ製作 ストーリブック送付		ふるさと納税受付 企業問い合わせ対応				タンカン発送	
食害モニタリング					農家とのモニタリング 事業委託		食害モニタリング・保護柵網・定点カメラの設置（農家さん） 定点カメラデータの回収（協議会） 保護柵の効果検証（農家・協議会）					
エコツアーの開催				エコツアーの計画・チラシ印刷 (事業者・協議会)			島内児童生徒向けの自然体験学習の実施 ・国立公園でのキャンプ（タンカン保護柵の設置） ・徳之島1周トレイルライド					
協議会 外部発信											協議会の活動を外部に発信するためのパンフレット製作	
自然保護基金 立上げ				「特定非営利法人 アマミノクロウサギ基金（仮称）」を立上げ の検討。 目的として、域内・域外からいただいた寄附金で、食害防止事 業・自然体験活動などの総合的な自然保護活動を推進することで、 住民の環境保全に対する意識を醸成する。						基金立上げ申請		

最後に

新規に取り組む団体へメッセージ

- エネルギーや自然、地域循環共生圏を生み出す材料は、地域によって異なると思います。また、材料にとってはその他省庁との連携も必要になると思います。
私どもも何かご協力できることがありましたら、ぜひ協力させてください。
- 本年度はタンカンを中心に高付加価値化を目指しますが、来年度はジャガイモやマンゴー、パッションフルーツなどのその他農作物についても高付加価値化を目指します。
当地域の農産物を食してみたい方は、遠慮なく私にお声がけください。